

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 6 月 2 日現在

機関番号：23602

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2020

課題番号：19K23272

研究課題名（和文）独立自営業者の共同体形成に関する労働社会学的研究：アニメ産業を事例として

研究課題名（英文）Sociological study on community formation of freelance workers: A case of animation industry

研究代表者

松永 伸太郎（Matsunaga, Shintaro）

長野大学・企業情報学部・助教

研究者番号：80847509

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、企業に雇われずに働く独立自営業者が、その職業生活の安定性をいかにして維持しているのかを明らかにするために、伝統的に独立自営業者が多く働くアニメ産業における労働調査に基づいて明らかにすることを試みた。東京都内の制作会社におけるフィールドワーク、アニメ産業の歴史的変遷に関する資料調査から、独立自営業者が抱える不安定性を支えるうえで共同性が重要な役割を果たしており、とくに仕事の獲得や収入の維持に資する個人的・組織的なマネジメントが職業生活の安定性を支えていることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

働き方の多様化にともなってフリーランス労働に対する社会的関心は高まっているが、その職業生活の安定性については経験的な議論が蓄積してこなかった。本研究はフリーランサー同士の共同性を支えるマネジメントの重要性を指摘した。この指摘により、フリーランサーを組織に依存しない労働者としてのみ捉えるのではなく、組織との多様な関係性が存在することを前提にフリーランス労働の可能性を議論していくことが重要であることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：In order to clarify how the freelancers maintain the sustainability of their working lives, this research conducted labor research in the animation industry, where many freelancers traditionally work. Through fieldwork at a production company in Tokyo and research on the historical change of the animation industry, this research found two important findings. First, the workplace community plays a vital role in coping with the instability of freelancers. Second, individual and organizational management, which contributes to obtaining jobs and maintaining income, supports the stability of working lives.

研究分野：労働社会学

キーワード：フリーランス労働 職場コミュニティ ワークプレイス研究 労働調査 エスノメソドロジー マネジメント

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 社会・経済環境の変化によって、職業生活のほとんどを特定の一つの企業で過ごす長期雇用的な働き方から、より企業横断的な働き方や、企業に依存しない働き方への社会的関心が高まっている。企業に雇われずに働く独立自営業(フリーランス労働)は、そうした働き方の一つであるが、必ずしも職場の実態に基づく経験的な分析がなされてこなかった。

(2) 社会学分野での労働研究においては、伝統的に労働者同士が形成する共同体に研究関心が寄せられてきた。とくに1980年代ごろまで、日本企業における正規雇用者(主に男性)が企業内に共同体を形成していることが着目されてきた(稲上 2005)。 (1)でも述べた変化により企業内の共同体への関心は薄れていったが、その後2010年代ごろにかけて非正規雇用者・外国人・女性など、正規雇用男性以外の社会的属性において共同体が再形成されていることを示す研究が現れてきている(代表的なものとして中根(2017))。しかし、こうした動向のなかで独立自営業者がどのような共同体を形成しているのかについては議論がなされてこなかった。

## 2. 研究の目的

本研究は、独立自営業者を基幹的な労働力として活用している企業・産業を対象とした労働調査を実施し、独立自営業者の共同体形成の可能性を探ることを目的に実施した。とくに以下の二点に研究課題を設定して研究を遂行した。とくに、独立自営業者が基幹的な労働力となっている日本のアニメ産業を研究対象とした。

独立自営業者はその働き方がもつ不安定性にいかにして対処しているのか：独立自営業者は企業との長期的な契約をもたないことが多いため、仕事の獲得が短期的かつ断片化しがちであり、常に目下の仕事がなくなり無収入状態になるリスクがある。こうしたリスクへの対処の実態を明らかにすることは重要である。

独立自営業者はいかにしてスキル形成を行っているのか：日本企業における雇用労働では、企業が長期的な人材育成の取り組みを行っていることが知られるが、独立自営業者についてはこうしたスキル形成の機会が乏しいと考えられる。そのなかでいかにしてスキル形成の機会を得ているのかを明らかにする必要がある。

アニメ産業における独立自営業者の共同体のあり方はいかにして変化してきたのか：アニメ産業は1960年代頃から正規雇用から独立自営業への基幹労働力の転換が見られる産業であるが、現在にかけて放映形態やビジネスモデルなどの変化が見られる。それにとまなう共同体の変化を把握しておく必要がある。

## 3. 研究の方法

実際に独立自営業者の作画担当者(アニメーター)が集まって働くアニメ制作会社でのフィールドワークを行い、かつ共同体形成の背景にある業界内の事情などについて把握するために歴史的展開を把握することのできる雑誌資料の文献調査を行った。

フィールドワークについては、東京都内に所在するアニメ制作会社にて3週間ほどの参与観察調査を行った。独立自営のアニメーターの働き方やコミュニケーションについて直接の観察やビデオ撮影を行ったほか、キャリア展望についてのインタビュー調査も実施した。さらに、研究期間以前での調査で取得していたデータのさらなる分析も行った。

雑誌資料については、文化社会学・歴史社会学を専門とする永田大輔氏の協力を得て、アニメ雑誌のなかで最も刊行期間の長い『アニメージュ』を中心に、時代ごとの制作者の動向を把握できる記事についての調査を行った。

## 4. 研究成果

### (1) 不安定性への対処について

フィールドワークの結果、アニメーターの仕事は話数やカット単位での請負業務となっており、一つ一つの仕事の契約期間はきわめて短期的であることが明らかになった。そのなかで無収入状態になるリスクは当事者にとっても認識されており、そうした自体は「手空き」と呼ばれていた。しかし、「手空き」を回避するための対処が現場には存在していた。

調査対象であった東京都内のアニメ制作会社 X 社においては、そうしたリスクに対処するためのマネジメントを行う役職が専門的に用意されていた。一般には仕事の受注管理などについては個々のアニメーターが行うことが主流だが、X 社においては、マネジメント担当が他社から発注されてくる業務について情報を集約し、一括して管理していた。それに加えて、マネジメント担当は個々のアニメーターの仕事上の進捗を詳細に把握しており、「手空き」のリスクがあるアニメーターに対して、X 社に対して発注されてきている仕事を斡旋するなどして、実際に無収入の状況に陥ってしまわないような工夫を行っていた。

こうしたアニメーターに対する適切なマネジメントが、独立自営業者が抱えがちな不安定性を低減させることに成功していた。さらに重要なこととしては、X 社はアニメーターが自らの裁

量で受注することについて妨げてはいなかった。一定のキャリアを積んだアニメーターは自らで他社とのネットワークを形成している場合も多くあり、そうした場合 X 社を介することなく直接に受注を行った方が効率的な場合も存在していた。X 社はこうした裁量については制約しないことで独立自営業者のメリットである高い裁量性については担保し、反面として生じるリスクを低減させることに注力していることが明らかになった。こうした仕

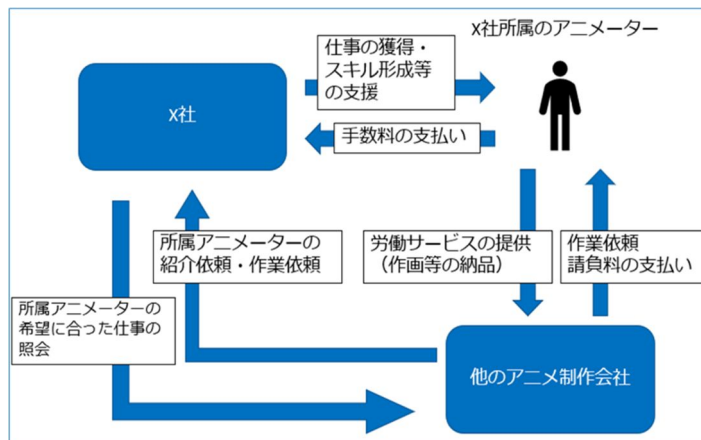


図1 X社の事業・収益構造

組みを支える X 社の事業・収益構造については図 1 にまとめた。

こうしたマネジメントの重要性に加えて、アニメーターが個人としてリスクに対処するために身につけているスキルについても明らかになった。とくにキャリアを積んだアニメーターは短期的な仕事と比較的長期的な仕事を組み合わせ受注し無収入状態が生じにくいようにしており、長期的な仕事が終了に近づいているときには短期的な仕事を巧みにつなぎながらその間に他社と交渉して次の長期的な仕事を得るということを行っていた。こうした巧みな時間管理も不安定性の対処に重要な役割を果たしているといえる。

## (2) スキル形成について

独立自営業者は個人化した働き方であるためスキル形成が自助努力による形になってしまう傾向があるが、アニメ産業では同業者同士での教え合いによるスキル形成が行われていることが明らかになった。

とくに X 社においてはそうした教え合いが企業内で制度化されていた。新人アニメーターが入社した場合、必ず社内の中堅～ベテランアニメーターから指導役が定められることになっており、1 年間は成果物を提出する前に指導役のチェック・指導を受けることによって、スキル形成の機会が担保されていた。そのなかで指導される内容については、単なる作画の技術上の事柄だけではなく、どのようなケースにおいて時間をかけた作業をするべきであり、どのような場合は他工程に任せればよいかなど、個々のアニメーターが広範な協働のシステムのなかで働くなかで、いかにして持続可能な働き方を行うのかなど、職業生活を営む上での実践的な知識についても伝達されていた。

さらに、こうした教え合いは新人に対してのみではなく、中堅やベテラン同士においても行われていた。他社から発注されてきた作画について指示があいまいである場合などに、その解釈について同じ作品を行う同僚と確認したり、当該のシーンにおける適切なキャラクターの動きなどについて議論するようなやりとりが複数回見られた。

しかしこれらのやりとりは無秩序に行われるのではなく、互いの仕事の進行の妨げにならないよう慎重に行われていることが話しかけ方やその際の身体的動作の分析から見られた。(1)の場合と同様に、互いの裁量性が損なわれないように絶えず互いに配慮しており、こうした配慮によって共同性が保たれていることが明らかになった。

## (3) 共同体のあり方の変化

(1)(2)から制作会社の取り組みにより独立自営業者の共同性が可能になっていることが明らかになったが、雑誌資料を中心としたアニメ産業の変動に関する分析からは、そうした共同体形成が困難化させる条件が生じていることも明らかになった。具体的には、アニメ産業において独立自営業者の基幹化が大きく進んだとみられる 1970 年代後半～80 年代に入職したアニメーターについては同世代同士の同業者評価が機能しており、それが技能形成と産業への定着に機能していたが、アニメ作品の放映期間の短期間化などの産業変動により、職場においてそうした共同性が出来上がる可能性が減じてしまい、結果として近年の若手アニメーターのキャリア不安につながっていることが見いだされた。

### 引用文献

稲上毅, 2005, 『ポスト工業化と企業社会』 ミネルヴァ書房。  
中根多恵, 2017, 『多国籍ユニオニズムの動員構造と戦略分析』 東信堂。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 永田大輔・松永伸太郎	4. 巻 95
2. 論文標題 多様な表現を可能にする制作者の労働規範の変容：1970～80年代のアニメ産業を事例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 マス・コミュニケーション研究	6. 最初と最後の頁 183-201
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24460/mscom.95.0_183	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松永伸太郎・永田大輔	4. 巻 43
2. 論文標題 労働社会学における「労働者文化」と労働調査：河西宏祐の自伝的テキストを手がかりに	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ソシオロゴス	6. 最初と最後の頁 140-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松永伸太郎・永田大輔	4. 巻 30
2. 論文標題 ポスト工業社会における労働者の共同性と個人契機の記述：河西宏祐の「労働者文化」論の可能性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本労働社会学会年報	6. 最初と最後の頁 26-47
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20750/arls.arls030.089	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 松永伸太郎・永田大輔	4. 巻 15
2. 論文標題 労働社会学における事例記述の意義と方法：河西宏祐後期の労働組合をめぐるテキストを読む	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 書評ソシオロゴス	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山邊聖士・浜野佑貴・松永伸太郎	4. 巻 15
2. 論文標題 政策的知識はいかにして可能か：『羅針盤としての政策史』の社会学的意義	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 書評ソシオロゴス	6. 最初と最後の頁 26-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松永伸太郎	4. 巻 41(3)
2. 論文標題 フリーランサーの職場における技能形成：アニメ作画スタジオの「上り棚」の利用を事例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 長野大学紀要	6. 最初と最後の頁 37-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松永伸太郎・梅崎修・藤本真・池田心豪・西村純・秋谷直矩	4. 巻 67(7)
2. 論文標題 ノンテリトリアル・オフィスの空間設計と身体作法：流動的再場所化による創造的チームワークの達成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本労働研究雑誌	6. 最初と最後の頁 74-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松永伸太郎	4. 巻 33
2. 論文標題 作画用紙上での協働とインストラクション：アニメーターの労働過程にかんする一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 年報社会学論集	6. 最初と最後の頁 6-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松永伸太郎	4. 巻 71(3)
2. 論文標題 アニメ産業における労働者の定着志向とその構造的条件：ネットワーク組織におけるインフォーマルなコミュニティに着目して 松永伸太郎, 永田大輔	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会学評論	6. 最初と最後の頁 358-376
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 松永伸太郎
2. 発表標題 コンテンツの作り手をめぐる「再生産」：アニメ産業におけるフィールドワークから
3. 学会等名 日本マス・コミュニケーション学会2020年秋季大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松永伸太郎
2. 発表標題 環境変化への対処としての マネジメントと労働者生活：『マネジャーの仕事』再考
3. 学会等名 第93回日本社会学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松永伸太郎, 布川由利
2. 発表標題 社会調査インタビューのEMCA研究の展開：1990年代以降の文献レビューから
3. 学会等名 2020年度エスノメソドロジー・会話分析研究会秋の研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松永伸太郎
2. 発表標題 『アニメーターはどう働いているのか?』から考えるフリーランス労働
3. 学会等名 第112回労働政策フォーラム(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松永伸太郎
2. 発表標題 原画用紙上での協働とインストラクション:非リアルタイム状況での共同作業を可能にする技法
3. 学会等名 第67回関東社会学会大会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松永伸太郎
2. 発表標題 メディア環境と労働調査:労働研究における聞き取り調査の現代的可能性
3. 学会等名 日本社会学理論学会第14回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松永伸太郎
2. 発表標題 「創造的な仕事」への折りあいとキャリア形成:ベテランアニメーターへのインタビュー調査が
3. 学会等名 第92回日本社会学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松永伸太郎・永田大輔
2. 発表標題 労働社会学の「調査」「理論」「方法」：河西宏祐のテキストを手がかりにして
3. 学会等名 日本労働社会学会2020年3月研究例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 MATSUNAGA, Shintaro
2. 発表標題 Making Freelance Work Sustainable: Management and Mutual Assistance in a Japanese Animation Studio
3. 学会等名 IV ISA Forum of Sociology (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 秋谷直矩, 團康晃, 松井広志	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 292
3. 書名 楽しみの技法：趣味実践の社会学	

1. 著者名 松永伸太郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 204
3. 書名 アニメーターはどう働いているのか：集まって働くフリーランサーたちの労働社会学	



1. 著者名 松永伸太郎・永田大輔	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 268
3. 書名 アニメの社会学：アニメファンとアニメ制作者たちの文化産業論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	永田 大輔  (Daisuke Nagata)		アニメ産業の歴史資料に関する専門知識の提供・助言

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------